

東京オリンピック・パラリンピックの中止を求めます

少なくとも、子どもたちを巻き込むことはやめてください

2021年6月19日

東京保健生活協同組合 理事会

「医療は限界 五輪やめて!」「もうカンベン オリンピックむり!」

5月の連休明けに、多くのマスコミが私たちの仲間である立川相互病院の窓に貼られた医療従事者の悲鳴であるこのメッセージを取りあげました。1年以上新型コロナウイルス感染症の対応で疲労し、心身ともに限界にきている状況のもとで、医療者・介護者としての使命感で奮闘している当生協の職員に対して、これ以上の負担を強いることはできません。

わたしたちは、患者・利用者・都民のいのちと健康を守る立場から、また、医療・介護労働者の健康を守る立場から、政府と東京都に対して、東京オリンピック・パラリンピックの中止を改めて求めます。

そして、さらに看過できないことは、さいたま市など首都近郊の自治体は子どもの観戦をキャンセルしている中で、東京都がオリンピックに子どもたちを観戦させることに固執していることです。

インドで発見された感染力の強いデルタ株は世界で猛威をふるいつつあり、日本でもイギリスで見つかったアルファ株にとって代わることが予測されています。この時期に公共交通機関を使って多くの子どもたちが行き来したり、「3密」が避けられない駅や会場で長時間待機させることは、間違いなくワクチン未接種の子どもたちの感染リスクを高めます。

子どもたちは、遠足や運動会、修学旅行、卒業式や部活動など本当に我慢してきました。部活動などの多くの大会は無観客です。オリンピックだけは特別で、感染リスクにさらすということは説明が付きません。

さらに、多くの競技が炎天下で行われるのに、コロナ禍のもとの熱中症リスクが考慮されていません。身長が低い子どもは地面の照り返しの影響が強く、体温調整の力も大人ほどありません。マスクをつけた観戦はさらに熱中症リスクを高めます。集団行動中の子どもの体調管理を行うには相当数の教員や補助スタッフが必要ですが、学校にその余力はありません。

感染症がどうなろうとオリンピックありきの政府と小池都政から子どもたちを守りましょう。東京保健生協理事会は、東京都が「学校連携観戦」を即刻中止することを求めます。

以上